

倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会（第2回） 会議録
医療・福祉・教育部会

- 1 開催日時 平成22年11月10日（水）13時30分～15時05分
- 2 開催場所 倉吉市役所第2会議室（本庁舎3階）
- 3 出席状況
 - (1) 委員 出席者4名（小谷部会長・桑本副部会長・池田委員・森本委員）
欠席者1名（村島委員）
 - (2) オブザーバー 1名（高塚委員）
 - (3) 事務局 4名
- 4 目的 次に掲げる事項を協議、確認するために懇談会を開催したもの。
 - (1) 中部定住自立圏の現状について
 - (2) 圏域の課題と可能性について
 - (3) 医療・福祉・教育部会（第3回）のスケジュールの確認
- 5 次第
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
 - (3) 報告事項 中部定住自立圏の現状について
 - (4) 検討事項 圏域の課題と可能性について
「中部定住自立圏の現状を踏まえて、足りているもの、足りていないもの」
 - (5) その他
 - (6) 閉会
- 6 資料 別添資料のとおり
- 7 結果 本日の会議の結果、次のとおり報告及び協議を行った。
 - (1) 中部定住自立圏の現状について
中部定住自立圏の地勢、人口及び医療、福祉、教育等の各分野の現状を整理した資料に基づき、報告及び説明を行い、圏域の現状を確認し合った。
 - (2) 圏域の課題と可能性について
圏域の現状を踏まえ、圏域の中で足りているもの（強み）、足りていないもの（弱み）を意見交換し、圏域の課題と可能性について検討した。
 - (3) 医療・福祉・教育部会（第3回）のスケジュールの確認
開催日程を協議した結果、次のとおり開催することとなった。

平成 22 年 11 月 24 日（水）13 時～15 時

8 会議内容（要旨） 以下のとおり

会議内容（要旨）

1 開会

○ 事務局

これから倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会の第 2 回部会として、医療・福祉・教育部会を開会させていただきます。

2 挨拶

○ 小谷部会長

医療・福祉・教育部会ということで、部会のまとめ役を受けさせていただきます。不慣れではございますが、皆様の意見をまとめながら、少しでも良い会議にできたらと思います。よろしくをお願いします。

3 報告事項 中部定住自立圏の現状について

○ 事務局

本日の会議は、定住自立圏共生ビジョンに記載する圏域の概況を説明し、現状を御確認いただいた後、日頃感じられることも含めて、委員の皆様から圏域の強み、弱みについて御意見をいただこうと考えております。そして、いただいた御意見を踏まえて、次の第 3 回の懇談会（部会）で圏域の課題、可能性等を出していきたいと思っておりますので、色々な御意見をいただければと思います。

よろしくをお願いします。

○ 事務局（策定支援会社）

概況について説明させていただきます。

鳥取県には、中部定住自立圏と、中海圏域定住自立圏、鳥取・因幡定住自立圏の 3 つの定住自立圏があります。中海圏域は島根県との県境を跨いで定住自立圏を組んでおり、「県境型・複眼型」の定住自立圏と区別されます。鳥取・因幡圏域は、県庁所在地の鳥取市があり、「大規模中心市型」の定住自立圏と区別されます。中部圏域は、倉吉市を中心市とした「小規模中心市型」であり、コンパクトな圏域を目指すというタイプに区別されます。

中部定住自立圏の地勢ですが、北部を日本海沿岸、東部は県庁所在地である鳥取市、南部は岡山県、西部は山々に囲まれ、県の中央部に位置しております。また、圏域の総面積は約 780 平方キロメートルで、県内の約 22% を占めるものとなっています。

気候につきましては日本海岸気候区に属し、気象は東京や岡山と比べると 1.5 度から 1.0

度低く、平均気温は比較的低い傾向にあります。

土地利用区分については、自然的土地利用と言われる山林・原野と農用地の面積を合わせますと、圏域の約4分の3となっており、緑の豊かな土地となっています。地形・地理条件については、周囲を山麓に囲まれており、国道や県道沿いに市街地が形成されています。自然環境については、川・山・湖・砂丘など、水や緑などに恵まれた美しい環境となっており、圏域の大きな魅力となっています。

人口の推移については、昭和60年に圏域全体で約123,000人でしたが、それ以降につきましては、各市町で若干の微減・微増の推移はありますが、大きくとらえると減少傾向で推移していることが伺えます。

世帯数の経年変化では、平成2年から平成17年の国勢調査の数値で、圏域全体で世帯数が年々増加しています。しかし、世帯人員の経年変化で見ますと、1世帯における人員数は年々下がっており、核家族化の傾向が伺える状況です。

人口動態については、生まれた数と亡くなられた数で表される自然動態、転入数と転出数の数で表される社会動態の総和となりますが、この人口動態を平成17年から平成21年でみますと、各市町で多少のばらつきはありますが、基本的には減少傾向となっております。

人口流動について、平成12年と平成17年のそれぞれで、流入人口と流出人口、男女別、圏内別での数値を整理しましたが、基本的に流入人口が流出人口を上回っているのは、倉吉市のみとなっています。他の4町は流出人口が上回っており、要は通学や通勤等において、外に出られる方が多い傾向となっております。定住自立圏全体では、若干の流出数値が多くなっている状況です。

将来人口について、今後の人口推計を示しております。人口推計につきましてはコーホート変化率法で行っており、平成17年から平成22年の各市町の住民基本台帳の数値を用いて推計しています。また、5年間にどれだけの方が生き残っているかという生存率と引越し等の転入・転出がどれだけあったのかという移動率を加味して推計しています。その他、0歳児の赤ちゃんの人口については、出生に適合する年齢（25歳～34歳）の女性人口と毎年生まれている数の比率も推計値に加味しています。

表を見ますと、あくまで予測ですが、平成22年の約111,000人のところが、30年後の平成52年には67,000人になってくるだろうと推計されます。また、封鎖人口（転入・転出等による移動を加味しない推計人口）では、平成52年では85,000人となっています。今後、このままの人口推移で予測される場合は67,000人ですので、今後の定住で何らかの対策をとって移動を押さえることができた場合、約15,000人の人口を確保できる可能性がでてきます。

なお、こちらの人口推計値については、倉吉市の総合計画とも整合性を取りながら数値を調整する必要がありますので、その点を御留意ください。

続いて、本日の分野に関わりのある医療、福祉、教育の分野を御説明します。

医療分野については、倉吉市、三朝町に中部保健医療圏での代表的な医療機関が存在していきまして、他の町は診療所が中心となって医療を行っている状況です。医師数等で見ますと、循環器内科、眼科、小児科、産婦人科が若干少ない傾向となっています。また中部圏域は2次医療圏で、中部の入院患者が若干名、東部若しくは西部に流れている傾向が伺えます。特に専門医療が必要な場合は、この傾向があるかと推察しておりますが、この辺りは、専門の

委員様からも御意見をいただければと思います。

福祉の分野については、高齢化率では、特に三朝町で30%強、琴浦町で約29%と圏域内では高くなっています。また、圏域内で比較したところ、三朝町では高齢者夫婦世帯、単身高齢者世帯の数が多く、琴浦町でも高齢者夫婦世帯が多くなっています。要介護（要支援）認定者の割合では、圏域内で比較すると、軽度の割合は倉吉市、琴浦町、北栄町で高く、中度の割合は三朝町で高く、重度の割合は北栄町で高くなっています。

介護保険サービスの状況では、各市町に供給基盤が確保され、居宅系・施設系のサービスは概ね整えられていることが伺えます。施設の待機者は、東部・西部と比較すると少ないものの若干名ありました。

子育て支援の状況ですが、保育所（園）や放課後児童クラブ（学童クラブ）等の子育て支援関連の施設については、一定の基盤が各市町で整えられています。現状で実施されていない子育て支援サービスについて調べたところ、次世代育成計画の中で整備する方向が伺えましたが、今後は、圏域内で病児保育にも対応していく必要があると伺っております。基本的には、各市町単独で整備が難しいサービスについては、広域で対応している状況が伺えます。

障がい者（児）福祉につきましても、広域で対応している部分が多いと思っております、一定のサービスは各市町とも整備されています。

教育分野については、小学校、中学校、幼稚園では、基盤として各市町に一定の整備がなされています。それから、高校や高等教育機関は倉吉市に集中していることが伺えます。

体育施設、文化・コミュニティ施設についても、各市町にて概ね基盤が整っていることが伺えます。こうした施設については、基盤はありますが、利活用が今後の1つの課題になってくるものと思われまます。

続いて、世論調査のデータを説明します。都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査の資料ということで、平成17年に農林水産省が全国の3,000名の20歳以上の方を対象にアンケートを実施しておりました。前回の懇談会で都市部から田舎へ移住したいニーズがどれくらいあるのかという委員の御意見がありましたので、これに類するような資料ということで紹介させていただきます。

Q10を見ますと、「(都市部に住む方への設問) あなたは農山漁村地域に定住してみたいという願望がありますか」という設問ですが、「(願望が) ある」「どちらかというところ」とある」の割合を合計すると1～2割の回答となっています。次のSQ（枝葉設問）を見ますと、先ほどのQ10で「ある」と「どちらかというところ」と回答した方に、「農山漁村地域に定住する願望を実現するためにはどのようなことが必要ですか」という設問で、この回答で4割を超えて高くなっている項目は、「居住地の決定に必要な情報全般が入手できること（41.3%）」、「農山漁村地域の居住に必要な家屋、土地が安く入手できること（43.3%）」、「医療機関（施設）の整備（43.8%）」となっています。

一方、Q15「(農山漁村に住んでいる方への設問) 都市住民が農山漁村地域に定住するための問題点は何だと思えますか」という設問で、最も割合が高いのは「都市住民が定住するための仕事がない（54.0%）」、「都市住民を受け入れるサポート体制が整備されていない（30.9%）」となっています。

いわゆる都市に住んでいる方が描いているニーズは、情報と住居、医療の項目が高く、農

山漁村に住んでいる方は、やはり仕事・職が問題であるとなっており、このような意識差も傾向としてあったので、御紹介させていただきました。

以上で説明を終わります。

○ 事務局

一点だけ補足させていただきます。現状の資料は何のためにあるかという点、前回の会議で配布させていただきました宮崎県日向圏域の共生ビジョンをご覧くださいとお分かりのように、総務省が定めた手続きの中で、圏域の概況を整理して共生ビジョンに記載することが必要とされております。それに当たる概況整理の部分を今回の会議に提出させていただいたということです。なお、概況については、本日の意見を踏まえて、再度整理したものをビジョンの前段に載せていくことになります。

○ 池田委員

資料2の10ページについて、2011年版となっていますが、記載されている数字は何年のデータでしょうか。

○ 事務局（策定支援会社）

資料の元は今年の夏に出版された総覧です。それぞれの施設数については、表に記載している年度のデータです。

○ 池田委員

資料2の10ページの医師数について、内科、循環器内科、消化器内科と分かれています。内科から循環器内科、消化器内科の医師数は外してありますか。それとも含まれていますか。

○ 事務局（策定支援会社）

重複しているかどうかは確認が必要になります。

○ 池田委員

医師の専門家の一般的な捕らえ方は非常に複雑です。医師数と専門医師数の数字が一致しない場合があります。その辺のところをはっきり捉えた数字を出していただけたらと思います。この点について医師会に問い合わせてもらいと、より詳しいものができると思います。

○ 池田委員

アンケートの中で都市部と農村部について、都市部は倉吉市もイメージされていますか。

○ 事務局（策定支援会社）

このアンケートでの都市部・農山漁村部の定義については、参考資料2の4ページのF5にあります。自己判断で伺っている形になりますので、必ずしも倉吉市を想定しているわけではありません。

4 検討事項 圏域の課題と可能性について

○ 事務局

これから医療、福祉、教育という3つの分野について、それぞれ現状の中で足りているもの、足りていないものと感じておられる部分を伺わせていただきたいと思います。

また、現状資料の中で、不足している部分や皆様方が知っておられる数値等があれば、御意見を伺いたいと思いますので、よろしく申し上げます。

(主な意見：詳細は、別添の会議のまとめ資料のとおり)

○ 医療

医療分野では、医療機関同士の連携が取れていること、看護学校の生徒が増員され、人材も育成していること等は良い面であるが、通院時の移動手段の確保、重症患者の対応、がんの受診率の低さ、平日夜間の診療体制の確保、在宅医療の充実等は課題となっているという意見があった。

○ 福祉

福祉分野では、医療と福祉の連携やサービスの種類が整っていることは大きな強みであるが、基盤が整っているが故に、サービス内容の格差や質の低下、サービス利用者が多くなっている状況が懸念されている。また、機能訓練できる施設、民生委員等のマンパワーの不足等も課題となっているといった意見があった。

○ 教育

教育分野では、学力テスト（上位ランク）、特別支援学校、地域連携、大学との連携等は、力を入れている面として意見があった。一方、家庭での教育力の不足、体育施設の利活用の面では若干課題が残されている。また、学校の適正規模（配置）については、今後の課題として挙がるだろうといった意見があった。

5 その他

○ 事務局

最後に第3回の日程調整をお願いします。

(第3回の開催日程を平成22年11月24日（水）13時～15時に決定した。)

6 閉会

○ 事務局

これで第2回部会を終了したいと思います。

本日は大変お忙しい中ありがとうございました。

(資料)

医療・福祉・教育部会（第2回）の会議のまとめについて【暫定版】

